



大野市教育委員会たより

令和元年10月8日発行 第24号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：10月1日（火）午後7時～8時50分 次第 ・1部 子育て講演（講師：久保教育長）
場 所：いとよ保育園 ・2部 意見交換
対象者：いとよ保育園保護者（10人）・保育士（11人）

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を○、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎このような意見交換会は以前も行ってたのか。学校に問題があったから意見交換を行っているのか。昔と今で、教育環境はかなり違うのか。
 - ⇒ ■（平成16年度から30年度までの学校再編の取組みの経過を説明）平成29年度1月に策定した再編計画見直しのために、今年度は小中学校・保育所・こども園・地区の方々などから意見を聞く意見交換会を行っている。
 - ⇒ ■昔と違い、学校教育の内容が変わってきている。例えば、福井県は2年前から国より先行して、小学校5・6年生で外国語科を設定し英語教育を行っている。道徳も教科となり、以前は副読本で授業をしていたが、今は教科書を利用している。その他、総合的な学習を現在は行っている。例えば地域の方を講師として迎え、いろいろな仕事や文化、伝統を教えてもらっている。学校の垣根が低くなってきている。様々な人が学校へ入ってこられるようになり、地域全体で子どもを育てる環境になっている。
- ◎小学校のクラブ活動の状況はどうか。
 - ⇒ ■小学校4年生以上が隔週で1回活動している。自分たちのやりたいことを主に行っている。例えば、家庭クラブで縫い物や調理をしたり、スポーツクラブで運動をしたりしている。4年生から6年生までが一緒に、やりたい子どもが中心となっている。授業の中に組み込んで行っている小学校が多い。
- ◎中学校1校になると連合体育大会（現在、中学校の連合体育大会は実施していない）はどうなるのか。中学校は2校以上が良い。
 - ⇒ ■今、中学校1校、小学校2校とする再編計画はストップしている。そのような課題も含めながら、学校数を見直していきたいと考えている。
 - ⇒ ◎高校に入ってから、別の中学校の友だちを知る楽しみもある。
 - ⇒ ◎学校数について、どこでコンセンサスを図るのか。住民投票でも良いので、再編計画を決めるプロセスをしっかりとってくれた方が良い。
 - ⇒ ■何校にしていくという案は現在はない。今年5月に実施した教育シンポジウムでのアンケートや小中学生に実施したアンケート、意見交換会で直接お聞きした意見・アンケートをすべて取りまとめて、それを基に来年度、学校数などの方向性を検討していきたいと考えている。住民投票までは考えていない。
 - ⇒ ◎これまでに、何校という意見が多いか。
 - ⇒ ■具体的な校数までは、あまり意見として出されていないが、小学校は地域にあった方が良いという意見をもらっている。中学校は専門教科の教職員の確保や部活動の選択肢を増やすという点から再編をした方が良いという意見がある。
 - ⇒ ◎市議会の承認がないと学校再編はできないのか。
 - ⇒ ■学校再編計画の策定は議会の議決を必要としない。再編計画は教育委員会で策定したが、その計画を実行していくための予算が議会で承認を得られなかったため、間接的に再編計画は認めないという意思決定が議会でなされたことになる。
 - ⇒ ◎議会はいろいろな意見を持っているため、まとまらないと思う。これからの子ども達のために真剣に考えてあげないといけないと思う。
 - ⇒ ■小学校6年生と中学校2年生全員に学校のことについてアンケートを行い、とりまとめた所である。
 - ⇒ ◎今年、意見をまとめて来年再編計画が決まったとした場合、どのくらいのスピード感で再編は進むのか。
 - ⇒ ■再編が決まり、次の年に実行することは無理である。再編になった場合、学校同士の交流が必要となる。小浜市では、4つの学校を再編し1つの新しい学校になっているが、2年以上かけて事前に準備している。
- ◎子どもの数が減ってきたから学校を減らすのか。校舎が古いから学校を減らすのか。学校再編では市街地と村部との温度差があると思う。学校が新しくなっても、市街地に出来ると周りは考えている。
 - ⇒ ■一番の理由は、子どもの数が減ってきて学校の規模がどんどん小さくなってきているからである。ある程度の人数を確保した中で、教育をしてあげないといけないと考えている。

- ⇒ ◎通学時間が掛かりすぎると子どもにも負担が掛かる。
 - ⇒ ■（児童生徒数の推移、各小学校の学級数、各中学校の部活数や専門教職員の配置状況を説明）子ども達にとってどんな環境がいいかを皆さんの意見を聞きながら、しっかり考えていきたいと思っている。
 - ⇒ ◎先生の人数も足りていないのか。
 - ⇒ ■学級数が基本となって教職員が配置される。複式学級では教務主任を担任が兼ねる。1学年の学級数が多いと担任以外の教職員が配置される。
- ◎中学校は部活が少ないから再編をしていくことは分かる。小学校の複式学級は、良くないのか。
- ⇒ ■複式学級において、教科の学習面では支障はないと思うが、体育での団体スポーツをするときに支障が出たりする。また、これからはA Iの時代と言われ、このA Iに勝るものは人間の思考力、話し合いによって高めていく力とされている。多様な考えを聞くという場合は人数が多い方が良い。
 - ⇒ ◎話し合いなどが必要な機会の時だけ、学校同士が一緒になって出来ないのか。
 - ⇒ ■複式学級を持つ学校が、別の学校へ交流に行ったり、クラブ活動を体験したりしているが、常に出来ることではない。複式学級を持つ学校では工夫しながら教育を行っている。
- ◎放課後児童クラブは、子どもを朝何時から夕方何時まで預けることが出来るのか。中学校での携帯ルールはどうなっているか。
- ⇒ ■放課後児童クラブは「家族全員が勤めていて、また近隣に面倒を見る人のいない、小学校に在学する昼留守家庭の児童」が対象となり、学校がある月曜日から金曜日までの下校時から午後6時まで無料で預けることが出来る。夏休みなどの長期休業期間は、月曜日から土曜日まで午前8時から午後6時まで開設していて、1日200円が掛かる。両方の利用とも申込みが必要で12月から1月まで受付している。就学児健康診断や学校説明会の時にも、放課後児童クラブについて説明を行う予定である。
 - ⇒ ■携帯については、小中学校とも基本は禁止である。SNSなどによるいじめは非常に見えにくい状況にある。学校はもとより市PTA連合会などでは、スマホの犯罪抑止を兼ねた啓発講演会などの研修も実施している。
- ◎自分たちの小中学校時代と状況が違うと感じた。今の教育環境は悪くないと思うが、この状況を維持するために再編するのか。
- ⇒ ■子ども達のことを一番中心に学校を考えていきたい。今の教育環境の状態が落ちず、維持できるように頑張っていく。1学級の人数が少なくなってくると、音楽での合唱や体育でのチームプレーが出来なくなる。授業でも、子ども同士で話し合いをしたり、自己表現をしたり、グループでまとめたことを発表したりすることに変わってきており、学級の規模があまり小さいと、このような授業がしにくくなる。だから、ある程度の規模を確保していきたいと考えている。
- ◎子どもが小学校にいた時、いろいろあり、雰囲気が悪くなかった。担任や校長に言っても駄目で、教育委員会に言おうとしたら、やめて欲しいと言われた。学校に何か思いを伝えたい時、意見を言える場所はあるのか。校区が決まっているので学校を選べない。様々な先生がいるが、平等に子どもを見ていただける先生にあたらなかった場合、どうすればいいか。
- ⇒ ■管理職である校長は、昔のイメージとはかなり違ってきていると思う。今は、授業や給食を見回り、子どもと触れ合ったり、教職員の状況を見たりしている。
 - ⇒ ◎学校に疑念があった時、誰に言えばいいのか。
 - ⇒ ■教育委員会に言ってきて欲しい。
 - ⇒ ◎保護者が悪いのか、学校が悪いのか、中立的な立場で判断してくれる第3者がいると良い。保護者から見れば、担任も校長も一蓮托生である。校長は部下である教職員をかばうと思う。
 - ⇒ ■第3者的な組織については、今後勉強させて欲しいが、市には常設の組織はない。国や県では、スクールロイヤーという弁護士の導入を検討している。また、青少年教育センターへメールなどで相談することも可能である。
- ◎毎年、担任が変わっている。保護者懇談会では冷たい対応の担任もいた。
- ⇒ ■概ね1・2年、3・4年、5・6年で担任は変わる場合がある。
 - ⇒ ◎担任が変わると学習面でも差が出来るし、落ち着きもなくなる場合がある。担任は誰が決めるのか。担任によって、子どもが本当に変わってしまう。
 - ⇒ ■担任は校長が決める。担任が変わるのには、いろいろな理由がある。校長の最終判断で決められている。ベテラン教職員と若手教職員ではどうしても差が出来る。教職員の授業力をつけるために校長会でも様々なことに取り組んでいる。



お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

